

平成 26 年度 入学試験問題

国 語
(第 1 回)

[注意事項]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、
解答用紙を取り出して受験番号を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

宮崎駿というアニメ映画の監督をご存知だろうか。『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『紅の豚』といった、日本のアニメ映画史を書き替えるような作品を次々におくりだしている人である。その宮崎監督が一九九七年（平成九）に大ヒットさせたのが、『もののけ姫』という作品である。この映画は、一三〇〇万人を超える観客動員を記録し、日本映画の配収記録を更新し、一九九九年の秋には、Princess Mononokeのタイトルで北米地域の三十三館で上映されたほどである。テレビでも何回か放映されているが、そのたびに視聴率は二五パーセントを超えるという。

①なぜ、『もののけ姫』が日本でも北米でも、それほどまでに広範な人々に受け入れられたのであろうか。ここではそれを考えることをきっかけに、現代生態学の生態系観や「ヒトと自然の関係」などについて考えてみたい。

まずは、簡単にストーリーを追ってみよう。

物語の舞台は中世、おそらく室町時代の日本。主人公は、東北の山里で暮らすエミシ一族の王家の血をひく若者アシタカである。ある日、怒りと憎しみに猛り狂ってタタリ神となった猪神が、アシタカの住む村を襲った。猪神を撃ち殺したアシタカは、死の呪いをかけられてしまう。その呪いの謎を解くための旅にでたアシタカが訪れた西の国では、荒ぶる神々と人間たちのあいだに戦端がひらかれようとしていた。

そこには太古の原生林が残り、人間の言葉を解する山犬や猪などの獣たちが棲んでおり、人間たちからは荒ぶる神々として怖れられていた。聖域たるその森林をまもっているのは、獣たちを従える、人面と獣の身体、樹木の角をもつシシ神であった。

アシタカは、人間の子でありながら山犬モロに育てられた「もののけ姫」サンとであう。サンは、神々とともに、タタラ集団と戦っていた。タタラ集団は、エボシ御前という女性のリーダーに率いられ、周辺の原生林を切りひらき、鉄をつくっている。エボシ御前は神々を森から一掃し、そこを人の暮らす豊かな土地に変えようとしていた。

シシ神には不老不死の力が備わっているとされており、ミカドの秘命をうけたジコ坊率いる謎の一団や、当地の大侍であるアサノ公方などがいりみだれ、シシ神の首をめぐって、熾烈な戦いがはじまる。アシタカとサンは、その戦いの中でしだいに心を通わせていく。

しかし、人間と獣たちの戦いは激しさを増していき、ひどい手傷をオった猪神の乙事主がただの荒ぶるタタリ神と化してしまう。サンは、タタリ神と化す乙事主を鎮めようとするが、逆にタタリ神に呑みこまれてしまう。アシタカは、死を覚悟でサンを救出しようとする。

④神々と人間たちの激しい死闘によっていったんは死に絶えようとした森だが、シシ神の奇跡の力によって蘇る。森に平和が戻ると、アシタカは好きだが、人間を許せないというサンに対して、アシタカは、それでもともに生きようと語りかける。

この映画では、「ヒトと自然の関係」が重要なテーマとしてとりあげられている。物語の舞台が

- 1 -

中世の日本であるにもかかわらず、実はこの映画の「ハイゴ」にある自然観は、現代のユニバーサルな常識、それも、西欧的な常識によくあつたものである。それは、自然とヒトを対立する存在としてとらえているからである。日本でも、今では多くの人がそうした常識を身につけているため、この映画は多くの人に受け入れられたのではないだろうか。もちろん、北アメリカの人々にとっても同様である。

『もののけ姫』に代表される現代のユニバーサルな常識的自然観では、自然と人間を次のように矛盾にみちた対立的な存在とみる。

ヒトの力がおよばない自然は、神々しくも調和のとれた自然、シシ神がAの象徴として君臨する自然である。しかし人間が豊かな生活を築くためには、聖域ともいふべき原生的な自然、神々の原生林を破壊せざるをえない。

そのため人間と自然のあいだには、決して「カイシヨウ」することのない矛盾が存在する。なぜなら、人間にとって自然とは、戦いを挑んで征服すべき対象でしかないからである。エボシ御前がシシ神の首を射落とすように、豊かな人間の生活のためには原生的な自然は開発されなければならないのである。

一方の自然は、開発というヒトが仕掛ける戦いに対して、時として巨大で懲罰的な力で対抗する。それは、報復にもみだてることのできる。原生的自然は荒ぶる神々の住む場所であり、開発に対する自然の側からの報復は、恐ろしいタタリ神の姿をとるようになる。

以上のような自然観にたてば、当然のことながら、自然の側に棲むサンと人間のアシタカは、同じ場所でも暮らすことはできない。「荒ぶる神々である自然と人間との戦いには、決してハッピーエンドはありえない」というわけである。

⑤そうした「常識」は、今ではあまりにも広く、そして深く人々の心を支配しているようである。かならずしも現実を適切にとらえる視点を提供するとはかぎらなくとも、誰にでもわかりやすい説明が常識となるからである。人は、あまりに複雑で理解しがたいものが意識されると落ち着かなくなる。単純化したわかりやすい見方や説明があたりまえられ、それで理解したつもりになれば落ち着ける。だからこそ、『もののけ姫』に代表される自然観は、その単純メイカイさゆえに広く人々の心をとらえているのであろう。

しかし、それは結局、人々に「人か自然か」といった二者択一を迫ることにしかならないのではないだろうか。むしろ、「しよせん、自然を破壊しなければ人の生活はなりたない」というあきらめに陥らせる危険性ははるかに大きく、やがては、自然破壊をB化するメカニズムの中にくみこまれる可能性すらあるのではないだろうか。

おそらく日本における伝統的な自然観は、自然と人をそのように対立させるものではなかったと思われる。それはむしろ、昭和初期を舞台にした『となりのトトロ』の世界のように、「人と自然」が同じ空間を共有し、ともに育ち、生かしあうことを当然とするものであつたのではないかと思う。つい数十年前まで、この日本列島に普通に存在していた里山は、森あり草原あり水辺ありの多様な場であり、人がそこから生活と生産に必要な資源を調達する場であると同時に、生き物の賑

- 2 -

わいにみちた、人と自然がともに生きる場でもあったのだから。

すでに前章でも簡単にふれたように、現代生態学における生態系観も、決して人と自然を対立させるようなものではない。むしろ、人を生態系の重要な要素であると考える。人の領域か自然の領域かという二者択一の論理はそこにはなく、「人と自然の関係」には非常に幅広い※スペクトルがありうると考える。また、たとえ人為がくわわらなくとも、生態系はダイナミックに変化するものであり、調和のとれた理想の状態にとどまるようなものではないことも、すでに述べた。しかし、生態学においてそのような生態系観が優勢になったのは、二〇世紀後半をすぎたからである。

人類は、その歴史を通じて、つねにみずからをとりまく世界をさまざまなやり方で認識してきた。初期には神話が重要な役割を担っていたが、ある時期からは科学もその役割を担うことになった。その中で生態系は、私たちのごく身のまわりから地球規模にまでひろがる自然について認識し、分析をくわえるためになくてはならない科学の概念である。生態系は、自然科学が現在あつかつている対象の中で、もっとも複雑なものの一つといえることができる。

(驚谷いづみ『生態系を蘇らせる』より)

※スペクトル……虹の色のように境目のはっきりしないちがいがいくつか並んでいること。

問1 線ア)エ)のカタカナを漢字で書きなさい。

問2 線①「なぜ、『もののけ姫』が日本でも北米でも、それほどまでに広範な人々にうけ入れられたのだろうか」とありますが、その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自然と人間は対立するものとして、人々に容易に受け入れることが可能な世界観を描いているから。
- 2 自然と人間は対立するものとして、自然を克服していく姿を通じて人間の可能性を描いているから。
- 3 自然と人間の対立をとおして、現代に生きる我々が忘れかけた自然への畏敬の念を描いているから。
- 4 自然と人間の対立をとおして、人間も自然の一部に過ぎないという普遍的な真理を描いているから。
- 5 自然と人間の対立をとおして、地球的規模で課題となっている環境問題の深刻さを描いているから。

問3 線②「タタリ神」と③「タタラ集団」は比喩的な意味を持っていますが、それぞれ何を表していますか。次の空らん□にあてはまる言葉を、それぞれ本文中より二字でぬき出しなさい。

- ② □ の □
③ □ の □

問4 線④「奇跡の力」とありますが、これは何を意味していますか。それが具体的にわかる部分を本文中よりぬき出しなさい。

問5 線⑤「常識」とありますが、これと対立する筆者の考え方を表している部分を、「という視点」につながるように、本文中より三十字以内(句読点、記号なども一字とする)でぬき出し、はじめとおわりの五字で答えなさい。

問6 空らん□A・□Bにあてはまる言葉として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、番号で答えなさい。

- A 1 混乱 2 権力 3 平和 4 秩序 5 恐怖
B 1 正当 2 効率 3 現実 4 画一 5 自由

問7 本文についての説明としてふさわしいものを次から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 『もののけ姫』に描かれている自然観は現代の多くの人々から共感を得られるものと言えるが、筆者の肯定する自然観とは異なるものである。
- 2 日本に存在していた「里山」は自然と人との共生の場であり、『もののけ姫』の中でアシタカやサンが目指した世界を具現化したものである。
- 3 生態系の維持を考えるとすることは、人間の自然に対するはたらきかけを極力少なくすること、調和的かつ理想的状態をつくることである。
- 4 我々の考えるべき生態学という概念は、自然を科学的に認識することを目的に生まれたものであり、人為を除いては考えられないものである。
- 5 宮崎駿氏の作品は一貫して自然と人間との対立をとりあげており、人間の過度な欲望やそれにたちはだかる自然の圧倒的な力が描かれている。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「高校の同級生であった玲と千夏は二十歳になった。玲は音楽を学ぶために音楽大学へ通い、ミュージカル女優を目指す千夏は劇団に所属して、それぞれの夢を追いかけている。」

「今度うちの劇団で若手公演をやることが決まって」

玄関先で、靴を脱ぎながら千夏はいきなり話しはじめた。前置きもない。頬が上気している。こういうところが千夏の① 気のおけないところだ。感情の出し惜しみが無い。もったいぶったり、気取ったりしない。

「たぶん、私、大きい役をもらえそうなんだ」

テーブルに着いても、よろこびを抑え切れない様子で瞳をきらきらさせて私を見る。

「おめでとう」

グラスをひとつ、千夏のほうへ押す。なんとなく買って飲んでいなかった缶ビールを注ぐ。千夏は今初めてグラスに気づいたように、ありがたそう、と手に取って乾杯するみたいにグラスを上げ、ひと息に半分くらい飲んだ。ずいぶん喉が渇いていたらしい。

「若手公演っていうのは、まだ大きい役をやらせてもらえない、私たちクラスの団員をメインに使った舞台なの」

「うん」

「今日、制作の——あ、制作っていうのは、劇団のいろんなことを全体的に見る人のことね、制作の仁科さんと呼ばれて、私ともうひとりの子とがメインになる舞台を考えてるって。それもね、仁科さんが若い頃にやって、大当たりした脚本なんだって。今回はその脚本で仁科さんが演出するんだよ」

子供みたいに素直だなあとと思う。もしくは、子犬みたいに。もしもこの子が子犬だったら、今、見えないしっぽをちぎれそうな勢いでびゅんびゅん振っているだろう。うれしくて、うれしくて。

「よかったね」

自分の声② 舞い上がっていることに気がついたらしく、千夏はちょっと声のトーンを抑えるそぶりを見せた。

「まあ、うちの看板の長井さんや園村さんの出ない舞台に、どれくらいお客さんが来てくれるか、心配っていえば心配んだけど」

「なにいつてるの、そんな心配、今する必要ないでしょ」

私がいうと、だよ、と笑った。

「それでね」

千夏は残っていたビールをひと息に飲み干した。

- 5 -

「ここからが重要」

そういつて、テーブル越しに身を乗り出した。

「私と、同期の早瀬七緒っていう子とがメインになるのはほぼ決まりみたいだけど、そこにもうひとり、必要なんだって。きれいな三角形にしたいって、仁科さんが」

③ ふうん、と相槌を打ちながら私は立ち上がって冷蔵庫からもう一本缶ビールを出し、空になった千夏のグラスに注いだ。

「ねえ、それがね、玲。三角形の三つ目の角は、外から採るんだって」

外から、という言葉の意味がよくわからず、三角形の角と結びつかない。外角と内角があるんだっけ。内角の和が百八十度、外角は隣り合わない二つの内角の和と等しい。

「聞いている？」

千夏は真正面からこちらを見ている。

「うん。聞いている。外から採る、でしょ」

「そもそも私と七緒がまったく正反対のタイプだから、そこにどんな素材を投入するかで、うまくいけば三人ともスパークする瞬間が見られるんじゃないかって。劇団員じゃなくて、ああ、うちの劇団に限った話じゃなくて、要するに、役者じゃない人の中から三人目を連れてこようと思ってるんだって」

「役者じゃないって、素人ってこと？」

「ううん、素人じゃなくて、歌う人。歌のプロフェッショナル。二十五年前に仁科さんが出たとき、その三人目の役をやったのは誰だと思っ？」

わくわくするのを隠し切れない表情で千夏が私を見る。さあ、と私は首を傾げる。二十五年前といったら、私たちが生まれる前の話だ。

「浅井久美子だっ！」

浅井久美子というのは、私が物心ついた頃にはもう歌手としてトップスターだった。駆け出しの頃に、彼女がそんな舞台に出ていたとは知らなかった。

「それにしても、おめでとう。大きな役がついてよかったね」

④ 私がいうと、千夏は、うううん、と首を振った。さらさらの黒髪が揺れて、部屋の空気を動かす。

「本題は、ここから。ねえ、ちゃんと聞いてた？ プロフェッショナルな歌い手を探してるの。

できればまだ名前の売れてない、原石みたいな人。今度の舞台で一躍 A、世界中の人々に発見されるんだ」

興奮した口調で千夏は話した。

「プロフェッショナルで原石？ そんな都合のいい人、いるのかなあ」

⑤ 水を差すつもりはなかったけれど、世界中の人々に発見される前に、千夏の劇団の制作のなんとかさんに発見される必要がある。よほど慧眼でなければむずかしいだろう。

- 6 -

ふと目を見ると、千夏が瞳を輝かせてこちらを見つめていた。

「いるんだって、そんな都合のいい人が。私、仁科さんに推薦してきたの。そしたら、ぜひ一度会ってみたいって」

「千夏はいろんなところに顔を出してるものね。そっか、ちゃんと目をつけてた人がいたわけだ」
こくこくと首の骨を鳴らさんばかりに大きくうなずいて、千夏は声をひそめた。

「いたわけだよ、ここに！」

⑥ 声を張り上げるより、ひそめるほうが効果が上がる場合がある。なるほどなあ、と私は思った。
歌うときも同じかもしれない。ここぞというときに、声を若干小さくする。それも表現の一種だろう。今度、ためしてみよう。——え？

「近いうちに時間をつくってほしいの。仁科さんに会ってほしいんだ」

え？

「ちょっと待って。何の話。仁科さんに会って、私が？ どうして？」

「玲、私の話、聞いてたでしょ。三角形の三つ目の角に、玲を推薦したの」

「推薦って……」

角を指してはいない。そうしたら千夏を傷つけるだろうか。でも、知っているはずだ。私は声楽を学んでいる。目指すとしてもミュージカルではなく、オペラだ。歌という共通点はあるにせよ、舞台が違う。

「ねえ、玲、覚えてるでしょ、高三の、初めて私をミュージカルに誘ってくれたときの、『よろこびの世界』。あのとき主演してたのが仁科秀子さんだよ」

心なしか千夏は胸を張っているように見える。

『よろこびの世界』はもちろん覚えてる。いいミュージカルだった。キャストもよかった。ラストは思わず立ち上がった。客席のほとんどが立ち上がって万雷の拍手を送っていた。

仁科さんって、あの仁科秀子だったのか。

仁科秀子は素晴らしい女優だった。それは認める。しかし、正統派の歌のうまさではなく、飛び抜けて美人というわけでもなく、踊りが傑出しているわけでもない。それより彼女を輝かせているのは、もっと本能的なものだと感じる。彼女には何か、持って生まれたものがある。そこにいるだけで舞台に深みが出る。表情ひとつで場の雰囲気（ふんいき）をびたりとつくってしまう。それなのに、愛嬌（あいぎょう）があつて、仕種（ししゅ）がいちいちチャーミングで。

私も好きだ、だけど、目指さない。目指すものが違う。

⑦ 千夏は敏感に私の気持ちを察したのだろう。顔つきが引き締まった。

「お願い。とにかく一度、話を聞いて。オーディションを受けて」

「話を聞くのはいいよ。でも、受けるかどうかは約束できない」

私という、千夏はまじめな顔でうなずいた。

「私には野望があつてね」

- 7 -

「うん」

「玲の歌をたくさんの人に聞かせたい。ここにこんなすごい歌を歌う人がいるよ、って知らせたい。だから、玲に舞台上に立ってほしい。声楽をやってる玲の本舞台じゃないのは知ってる。でも、待ち切れないんだよ。早く、早く玲を人に知らせたいんだよ」

「ありがとう。気持ちはうれしいけど」

「それから、もうひとつ、これはもっと純粋な野望。玲と歌いたい。ふたりで舞台上に立ちたい」

純粋な野望、か。

「あ、笑ってる。なによ、人が真剣に夢を語ってるのに」

「ううん、寝るの」

「無理だよ」

勢いで笑い飛ばそうとして、笑い切れなかった。われながら情けない声になった。

「買い被りすぎ。芝居の勉強をしたこともない私がオーディションに通るほど、甘い世界じゃないでしょ」

千夏がどんなに舞台上に立ちたがっているか、そのためにどれほどがんばってきたか知っていれば、簡単に誘いに乗ることなどできるはずがない。千夏の努力を尊重すればこそだ。

それに、もしもオーディションを受けたとしても、落とされるだろう。B なイメージしか

浮かんでこない。負けが込んでいた。声楽科はただか二十人ほどのクラスなのに、そこで一番になれない。何がいけないのかもわからない。留学に推薦されるのも、発表会で主演するのも、私ではなかった。私をすごいと思ってくれている千夏に、ほんとうの実力を知られるのは怖かった。

千夏は、空になったグラスをじっと見たままため息混じりにいった。

「つまらないことをいうんだね」

「つまらない？ 何が？」

⑧ 聞き返した声（こゑ）が尖（とが）ってしまった。私は少し腹を立てているんだと思う。勝手に舞台のオーディションに誘って、断ったからといって、つまらないだなんて。いわれなくても私は自分がつまらない人間だということをよくよく知っている。融通（ゆうずう）は利（き）かないし、やさしくもなく、冗談（じやうだん）のひとつもいえない。歌を歌うことしかできない。それも、クラスで一番にもなれない歌だ。

「世の中そんなに甘くないとかってさ、もうほんつとにつまらない台詞（せりふ）だと思うよ」

千夏は怒ったような目で私を見ながら立ち上がった。

「帰るの？」

慌（あわ）てて聞いた。そんなに怒ったのか。今から帰るのは大変だ。まだ終電には間に合うだろうか。

「ううん、寝るの」

あつさり千夏はいつて、洗面台のほうへ消えた。

千夏の分の蒲団（ふとん）をクローゼットから出しながら、自分のほんとうの気持ちを確かめる。土砂（どしゃ）に混じって見えなくなった、砂金（さご）みたいなほんとうの気持ち。千夏の劇団で、歌いたいの、歌い

- 8 -

たかないのか。

「ごめん。私も、嫌いだ。甘くないってリミッターかけて、逃げてゐるのかもね」

洗顔を済ませて戻ってきた千夏にいうと、いいよ、とあつさりしている。

「自分を甘いつて思うのはまだいいんだ。人を嘲ったり牽制したりするときさ、よく、甘くないっていうじゃない。あれを聞くと私、ほんとにがっかりするんだよ。今までに百万回いわれたよ。何の素養もなくそう簡単にミュージカルになんか出られるかって、世の中そんなに甘くないって」

「百万回か。それは相当多いね」

思わず笑ったら、千夏もつられて笑う。

「ちよつと盛った。ほんとは四十回か五十回つてとこかな。それだけ聞けばもうじゅうぶんだよ。一生分いわれたよ」

じゃあ、と私はいった。自分の気持ちを確かめながら。「歌いたい」と「怖い」はどちらが強いだろう。強いのは「歌いたい」で、弱いのも「歌いたい」だと思った。「歌いたい」けれども「怖い」。それを弱いと呼ぶのだろう。でも、気持ちを奮い立たせた。

「じゃあ、そのうちの十回分くらい、引き受けるよ」

五十回がっかりさせられても負けない千夏がかつこよく見えたから。

「オーディション、受けてみる。歌わせてくれるなら、歌いたい」

そういった瞬間、カチリとスイッチが入るのを感じた。ヴィーン。モーターが動き出す。熱い血潮が身体を巡る。駄目でもともとじゃないか。落ちたつて、百万回のうちの一回くらい、どうってことない。歌いたい、と思った。歌うんだ。千夏と、歌うんだ。

(宮下奈都『終わらない歌』より)

※慧眼……物事を見通すすぐれた力。

問1 — 線①「気のおけない」、②「舞い上がっている」、⑤「水を差す」の言葉の意味として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、番号で答えなさい。

①「気のおけない」

- | | | | |
|-----------|----------|----------|---------|
| 1 気つまりでない | 2 油断できない | 3 気が気でない | 4 つまらない |
| 5 理解できない | | | |

②「舞い上がっている」

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| 1 ひるがえっている | 2 もとに戻っている | 3 興奮している |
| 4 恥ずかしがっている | 5 大きくなっている | |

⑤「水を差す」

- | | | | | |
|--------|--------|---------|----------|--------|
| 1 ひやかす | 2 応援する | 3 邪魔をする | 4 気をもたせる | 5 ごまかす |
|--------|--------|---------|----------|--------|

問2 — 線③「ふうん、と相槌を打ちながら」とありますが、この時の玲の気持ちとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 自分が三角形の角に推薦されていることにうすうす勘づきながらも、気づいていないふりをしようと思っている。

2 自分には直接関係のない話だと思っではいるが、話を切らないようにいちおう最後まで聞こうと思っている。

3 いちいちおおげさな動作をする千夏に違和感を抱きながら、とりあえず返事だけはしておこうと思っている。

4 いつまでも本題に入ろうとしない千夏の態度にいらだちを感じ、この話を無視して違う話をしようと思っている。

問3 — 線④「千夏は、ううん、と首を振った」とありますが、この時の千夏の気持ちとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「大きな役がもらえてよかったね」と言われたが、言いたいことは自分の役のことではないのにと、もどかしく思っている。

2 「大きな役がもらえてよかったね」と言われたが、実際にはたいした役ではないので、素直に喜べないと思っている。

3 「大きな役がもらえてよかったね」と言われたが、お客さんの数も予想できないような舞台なので、不安に思っている。

4 「大きな役がもらえてよかったね」と言われたが、ここで喜びすぎるとまだデビューしてない玲に悪いので落着こうと思っている。

問4 空らん ☐ A ☐ B にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、番号で答えなさい。

A

1 板について	2 頭打ちになって	3 脚光を浴びて	4 機が熟して
5 汗水たらして			

B

1 結果的	2 観念的	3 革新的	4 感覚的	5 悲観的
-------	-------	-------	-------	-------

問5 — 線⑥「声を張り上げるより、ひそめるほうが効果が上がる場合がある」とありますが、ここではどのような効果があつたと考えられますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 千夏が突然声をひそめたことによつて、玲を説得できないだろうとも思っていた自信のなさが際立った。
- 2 千夏が突然声をひそめたことによつて、この言葉がこの話の中で何より重大な発言であることが際立った。
- 3 千夏が突然声をひそめたことによつて、玲が絶対に反対できないように力強く命令している様が際立った。
- 4 千夏が突然声をひそめたことによつて、ここまでの話がいかに大切な話であつたのかが際立った。

問6 — 線⑦「千夏は敏感に私の気持ちを察したのだろう」とありますが、この時の玲の気持ちとはどのような気持ちですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の歌を一人でも多くの人に聞いてもらいたいと思つて、そのチャンスがめぐつてきた今、自分の目指す舞台とは違つたとしても早く自分の歌を皆に聞かせたいと思ふ気持ち。
- 2 高校時代に見て、最後には立ち上がつて拍手をするほど興奮したミュージカルに、自分が出演できるかもしれないということに喜びを感じ、絶対にオーディションに合格したいと思ふ気持ち。
- 3 自分も認めるほどの素晴らしい女優である仁科秀子が演出を務めるミュージカルであるということに心を奪われたが、自分の実力ではオーディションに通うとは思はず、その役を目指すことはないと思ふ気持ち。
- 4 自分が推薦された役は今ではトップスターである歌手が過去に演じた役であり、その舞台の演出を自分の好きな女優がすることを告げられはしたが、その舞台は自分の目指すものではないと思ふ気持ち。

- 11 -

問7 — 線⑧「聞き返した声が尖つてしまった。私は少し腹を立てているんだと思う」とありますが、このように玲が感じているのはなぜですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 玲がまだ心の準備ができていないと言っているのに、千夏が勝手に受験の日にちまで決めてしまったから。
- 2 玲が今置かれている立場や気持ちもよく知らないのに、千夏が勝手に話をすすめて玲のことをとがめてきたから。
- 3 玲はまだ話の内容をすべて理解していないのに、千夏は話したいことだけ話して自分が絶対に正しいと主張しているから。
- 4 玲はどんなに努力を重ねてもこのオーディションには合格しないと言っているのに、千夏が無責任に受験をすすめてくるから。

問8 — 線⑨「カチリとスイッチが入るのを感じた」とありますが、これにはどのような気持ちがあつておられますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分自身が今置かれている立場に納得できず、もっと自分はレベルが高い歌手だと思つていたところに千夏からの誘いがあり、これをきっかけにして大学で認めてもらおうと強く思う気持ち。
- 2 自分自身が今置かれている状況に自信を失いかけて、どうせ一番にはなれないと自分を見失つていたところに千夏からの誘いがあり、状況とは関係なく、純粋に歌を歌つてみたいと思ふ気持ち。
- 3 自分自身が今置かれている状況に迷つていて、大学を辞めてしまおうと思つていたところに千夏からの誘いがあり、どうせ辞めるのなら、その前に挑戦だけでもしてみようかなと思ふ気持ち。
- 4 自分自身が今置かれている立場に疑問を感じ、このまま歌を続けるかどうか悩んでいたところに千夏からの誘いがあり、プロになれるのならこのチャンスをもにしようと思ふ気持ち。

問9 本文について説明したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 会話文の中にカタカナ語をくり返し使うことで、テンポの良さを生み出し、玲と千夏のにぎやかな雰囲気前面に出している。
- 2 会話文とは別の部分にも玲の心情を描くことで、ゆるやかに変化していく玲の気持ちを丁寧に伝えようとしている。
- 3 会話文の直後に描かれた玲と千夏の動作から、二人の心情が刻々と移り変わっていく様子を伝えている。
- 4 会話文を多用することで、玲と千夏の心がだんだんと通い合っていく様子を描き、急速に展開する物語に読者を引き込んでいる。

- 12 -

3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

前へ

原っぱの 向こう
空に星が 輝く

① 生きるために 不可欠な物語を
人生のノートに 書き始めたのは
いつの事だっただろう

② 他愛のない会話
曖昧な毎日
それでも 花は 咲くことを忘れず
木は 葉を繁らした

③ 等身大の自分を受け入れることと
今の自分に安住しない姿勢で
満足と怠惰の間に 立ち止まらないこと

日々の暮らしは 誰かとめぐり会い
言葉が 喜劇も 幸福も 連れてくる
特別な話題がなくても
人は 灯りを 燈し続ける
言葉の力で

④ 一步一步 前に進むただだ
ときどき 補助線を引いて
立ち止まりそうな 足を
元気づける

(中尾一郎『洪水の夢』より)

- 13 -

問1 線①「いつの事だっただろう」とありますが、これから読み取れる作者の思いを説明

したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 前向きに生きる決意をした日を思い出そうとしている。
- 2 自分の思いを記録しはじめた時代をなつかしんでいる。
- 3 はるか昔の記憶について読者と説明しようとしている。
- 4 言葉の力で生きはじめた遠い過去に思いをはせている。

問2 線②「他愛のない」のここでの意味として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 とりとめのない
- 2 せんかたない
- 3 よんどころない
- 4 やるかたない
- 5 こころもとない

問3 線③「等身大の自分」とありますが、この意味を表す次の慣用句の□に入る生き物の名前をひらがなで答えなさい。

□は甲羅に似せて穴をほる。

問4 線④「補助線を引いて」とありますが、なぜ「補助線」を引かなければならないのですか。その理由として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 明らかな目的が見つからずにまよってしまったため。
- 2 なくしかけていた意欲をもう一度とりもどすため。
- 3 生きる意味をなくした自分に手をさしのべるため。
- 4 人生での難しい問題を解く打開策を見つけるため。

問5 この詩の中で使われている表現とそのはたらきを説明したものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ややわかりづらい直喩を使うことによって、読者に深く考えさせようとしている。
- 2 擬人法を使用することで、重い話題でも前向きに読者にうったえようとしている。
- 3 言葉の順番を変える倒置法によって、後ろに回したことを強く印象つけている。
- 4 対句法で表現することで、言いたいことが段階的に伝わるように工夫されている。

- 14 -

問6 この詩で作者が伝えたかったこととして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 毎日の生活は特別なできごともなく、おもしろくないものだが、そうした日常をはなれてみることで新しいものの見方が生まれるものである。その働きをするのが言葉だ。
- 2 植物が季節のめぐりの中で時を重ねていくように、人間も、さまざまなできごとを経験しながら日々のくらしを重ねている。それは言葉の支えがあつてこそのことである。
- 3 人間が生きていくうえで言葉というものは必要不可欠なものである。そのため、誰かに話しかけたりすることだけではなく、日々のできごとを書き記すことが大切である。
- 4 言葉はつらいことばかりでなく、楽しいことやうれしいことを感じたり、それを誰かに伝えたりするための道具である。もし言葉がなければ人生はつまらないものになる。

(問題は次のページに続く)

4 漢字の多くは意味を表す部首と、音を表す部分の組み合わせで成り立っていますが、ときに同じ部首でも異なる形で表されることがあります。次の各文の――線のカタカナを漢字に直し、二字に共通する部首を後から選び、番号で答えなさい。なお、同じ番号を二度以上使うことはありません。

例 春休みにはオンセンに行きたいなあ。 (答え) 温泉→水

- ① 実験の結果をしっかりとハンベツする。
- ② 必要な資料をシュシヤ^{せんたく}選択する。
- ③ 子どもにアイジヨウをかけて育てる。
- ④ 今年の夏もエンネツの暑さだった。
- ⑤ 昔に比べるとシュクサイ日は増えた。
- ⑥ かぜを引いてイチヨウが弱っている。
- ⑦ コインのようにヒヨウリ一体となっている。
- ⑧ シカクにうったえるポスターを作った。

- | | |
|----|---|
| 1 | 火 |
| 2 | 手 |
| 3 | 衣 |
| 4 | 刀 |
| 5 | 見 |
| 6 | 示 |
| 7 | 力 |
| 8 | 心 |
| 9 | 肉 |
| 10 | 犬 |

入学試験問題（第1回） 国語

解答用紙

1

問1

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

問2

問3

③

②

の

の

問4

問5

問6

A

B

問7

問5

という視点

2

問1

①

②

⑤

問2

問3

問4

A

B

問5

問6

問7

問8

問9

3

問1

問2

問3

問4

問5

問6

4

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

受験番号

得点